

広島大学理事・副学長（教育担当） 坂越 正樹 殿
広島大学附属学校園長 各位

広島大学附属学校評価委員会

平成 26 年度附属学校園の評価に関わる総括提言

当委員会は、平成 23 年度以来、今年度で 4 年目に当たる。本年 7 月から 8 回の会合を持った。各附属学校園が昨年度の評価（総括提言・講評）にもとづき、大学の目指す目標、特にグローバル化、また、附属学校園としての本来の使命の遂行に努めて、教育と研究の推進、経営・管理と財務の改善、海外研修成果の校内活用という観点に立って、各学校園への聴き取り調査を実施した。各学校園から、昨年度来の改善・改革点、その経過と結果、財務状況の報告を受けるとともに、部署の責任教員や学年担当教員などから各学校園の教育目標、経営方針を各部署、各学年でどのように受けとめ対応しているかを聴取し、別紙により各学校園への報告書を提示した。

本総括提言は、学校運営・経営、学校づくり、カリキュラム、教育研究、施設・設備、保護者・地域社会との関係、財務状況、情報発信・広報、職務時間、また上級学校、広島大学の各学部・研究科との関係などの項目に関して、各学校園、大学本部及び附属学校支援グループ、各学部・研究科へのさらなる改善点と要望をとりまとめたものである。

I 各学校園の改善状況（総括）

各学校園とも、昨年度から今年度にかけて、各学校園の講評にもとづき、学校運営・経営、学校づくり、カリキュラム、教育研究、保護者・地域社会との関係、財務状況、また上級学校、広島大学の各学部・研究科との関係などに関して、スピード感のある改善が認められた。

とくに、

- 1) 各学校園とも、改善策の必要が意識され、その実行がなされていた。
- 2) 各学校園とも教育体制づくりに積極的に取り組んでいる。
- 3) 各学校園とも研究開発校等に応募・申請し、多くの学校が採択され、研究推進に取り組んでいる。
- 4) 各学校園とも学校関係者評価、生徒、保護者などのアンケート（データ、エビデンス）にもとづく自己評価・点検を進めている。
- 5) 各学校園とも教職員の一体化を図り、チームとして取り組む姿勢が見えてきている。

しかし、十分とは言えないものもあり、さらなる改善を要するところがある。たとえば、各部署の責任教員、学年担当教員の面談において、学校教育目標や経営方針が学校長から示されても各部署、学年にそれを引き受け具体化が充分図られていないこと、海外研修派遣教員の面談では、その成果を共有したり活用したりすることがなく、個人の経験に留まっていることが見られた。また、評価方法については、いくつかの学校園では、評価に関する改善を進める試みが見られるが、なお一層、PDCA サイクルを意識化し、評価の構造化・可視化を図り、よりよい教育・学校改善のための評価システムを構築することが必要である。

さらにまた、次の点は多くの学校園に見られるもので、改善を要する点である。その一方で、それぞれの学校園の改革・改善に関して、他校園においても参考になると判断できる取り組みもあり、それらは附属学校園間で積極的に共有し、活用することが望まれる。

II 各学校園にさらなる改善を願う点

学校園によってはすでに改善がなされているところも見られるが、全体を見ると、まだ改善を要するところもある。

1：校長・副校長による学校経営方針の明示，校長・副校長のリーダーシップの発揮

①学校経営・教育方針が明らかにされていても、学校要覧や各学校園のHPなどにおいて、学校経営や教育を紹介するものに反映されていないところが見うけられる。これを明示するとともに、その着実な実行と評価を進めていただきたい。

②校園長・副校園長のリーダーシップは従来よりも発揮されている。校園長・副校園長のリーダーシップのもとで、学校経営をさらに進める体制づくりを確立し、日々の教育・研究活動の推進を行っていただきたい。

2：学校教育目標や学校教育方針などにおける現代的教育課題の取組

①学校教育目標や学校教育方針は各学校園が自らの教育の方向性を示すものであり、社会的責任として、HPなどに提示するとともに、関係者に理解しやすく、わかりやすいものにしていただきたい。

②学校教育目標や学校教育方針は、広島大学が目指す方向性として大学全体として取り組んでいるグローバル化、情報化などの現代の教育課題に、各学校園で取り組もうとしている。21世紀を担う子どもたちを育てる教育を進めるという観点から、各学校園の構成員や関係者に現代の教育課題を理解され、遂行されるように、さらなる取り組みを行っていただきたい。

3：特色ある学校づくり

①教育と研究の充実と結合の必要性

各学校園はこれまでの研究の蓄積の上に立ち、国からの各種研究開発指定校などとして委嘱され、優れた教育、特徴のある研究を進めていることは高く評価したい。今後も継続して行い、学校教育の推進校として自覚し、地域・日本のモデル校となっていっていただきたい。その際、教育と研究を相互に結びつけ、これら二つが相乗効果をもたらし、それぞれの学校園の教育全体の進展、また特色となるよ

うに努めていただきたい。

②各学校園の個性と特色

11 学校園がそれぞれ、個性と特徴のある教育と研究を進めることが望ましいすがたである。それぞれの教育や研究の独自性にもとづき特色ある学校園づくりを進めていただきたい。

たとえば、研究会の時期が重なったり、類似のテーマになったりしないように、観点を明確に打ち出すように配慮して、各々の学校園の特色が出るようにしていただきたい。

また、各学校園では広島大学に対する貢献や存在意義をアピールできるよう、個々の学校園の貢献や存在意義とともに、例えば、広島大学が進めているグローバル化や国際化に対する貢献なども示していただきたい。

4：子どもたちの実態に即し、教育成長を促すカリキュラム設計とその評価、改善の遂行

①学校カリキュラムの設計と実施

学校園のカリキュラムこそ、計画設計段階における、各学校園の学校経営、教育方針を実現させるものである。特定の研究の推進だけではなく、学校園のカリキュラム計画に融合させ、教科・領域の指導と結び付け、系統性をもたせ、独自で特徴のあるカリキュラムを設計・実施・達成するとともに、その検証・評価をすることによって、改善を行っていただきたい。

②学校園、子ども、地域実態に適したカリキュラム設計・作成とその評価・点検の実施、改善

各学校園のカリキュラム設計は、これまでの教育と研究の実績の上に、各学校園、子どもたち、取り巻く地域社会の実態に即するとともに、子どもたちの成長を促進するものにしていただきたい。また、カリキュラム、指導計画とともに、保護者、子どもたちからの評価などの評価計画を作成・実施し、適切な方法で教育研究活動の妥当性を確認し、その改善をお願いしたい。

5：教職員集団のチームとしての組織化

①教職員一人一人は優れているが、一人一人が個別に行動し、教職員がまとまって力を発揮することの難しい学校園も見られる。校園長以下、教職員すべてが、学校園の経営方針や教育理念を共有し、チームとなって、各学校園の教育と研究に取り組み、学校園として力が十分に発揮できるように、組織化していただきたい。その際には、生活ベースに基づいた指導も考慮して、教科間での理解も深めていただきたい。

②教員研修は各学校園ともに進められているが、その成果の活用、また深化という点では効果が低いところが見受けられる。授業研究、職員研修などの機会とともに、その成果の共有化、また活用を勧めていただきたい。

6：人事とその交流の円滑化

①いくつかの学校園では教職員の人事交流が頻繁なために、在職期間が短く、長期的展望をもって教育を行うことが難しい現状にある。大学採用と交流人事のバラ

ンスを図るとともに、各教育委員会との人事交流に関しては、担当の理事、副理事等と連携を密にし、円滑で、計画的なものにしていただきたい。

- ②教職員の構成に関しては、学校経営方針、また教育・研究の面からも、年齢構成などに配慮し、様々な面でバランスのとれたものにしていただきたい。

7：施設・設備

- ①いくつかの学校園では、校（園）舎が老朽化し、安全面から施設や設備の改善を要するところがある。附属学校支援グループ、大学本部など関連部署に、速やかに改善の要求を行っていただきたい。
- ②とくに、古くなり傷んだり腐食したりしている校舎、施設、設備には十分な安全策を講じて、子どもたちに怪我などないように万全の配慮と注意をしていただきたい。

8：地域社会との関係

- ①各学校園は、保護者、教職員や子どもたちとともに、地域社会の関係者にも支えられているので、保護者、地域社会からの要望をもっと意識して、その教育や研究が理解されるように今後も努力していただきたい。

9：上級学校（進学）との関係

- ①いずれの学校園においても上級学校への進学問題を抱えている。この問題は各学校園の経営・教育方針にしたがって、子どもたちや保護者にわかりやすく、納得の得られるような対応をしていただきたい。

10：財務状況

- ①各学校園ともに、予算の厳しい状況に直面している。この状況は当面続くと考えられるので、総枠裁量制の特質を活かして、予算の見直し、総枠内での組み換えなど、さらなる削減努力を行っていただきたい。
- ②いくつかの学校園では削減策として、消費電力の明示化、ポスター、シールなどによって節減意識の徹底を図り、重点配分による効果・成果の増大を狙っていることは、参考にしていきたい。
- ③各学校園・教員の研究費予算を増額するために科学研究費、研究開発指定校等の外部資金を積極的に獲得し、少しでも財政状況にプラスになるようにしていただきたい。また、校園長・副校園長においては、すべての教員が科学研究費（奨励研究）に応募・申請するように、研究テーマの設定、申請書の書き方などをサポートするとともに、促進していただきたい。
- ④各学校園のいろいろなシステムの共有化による相互利用を促進するとともに、業務の簡便化、負担軽減を進めてほしい。

Ⅲ 大学本部・理事・副理事・附属学校支援グループに改善を願う点

1：附属学校園への配慮

- ①附属学校園は、就学前教育・初等教育・中等教育をすすめるものであり、高等教育よりも一段高い配慮を必要としている。この点に関する配慮を十分に行っていただきたい。

- ②附属学校園は、附属学校園としての使命を果たすべく、大学教育の一環としての機能とともに、それぞれ独自の役割を進めている。各学校園の役割と機能を理解し、それぞれの学校園が特色ある学校園づくりが可能な環境整備と支援を進めていきたい
- ③とくに、学校園においては校舎、施設・設備の老朽化が進んでおり、園児・児童・生徒の安全面を脅かす事態になりかねない。各学校園からの施設・設備の改善には、速やかに対応してほしい。
- ④新採用教員の教育実習の合同事前説明会など、新採用教員へのケアが今年度なされたことは、適切であった。

2：各附属学校園間の調整について

附属学校支援グループや副理事は、人事、財務についてはイニシアティブをとっていただいているが、研究テーマや研究会の日程など教育研究活動に関わる部分でも、主導的立場で調整を行っていただきたい。

3：予算措置の充実

各学校園の校舎・施設・設備の改善のため、また教育・研究の促進のために、各学校園への予算を大幅に増額し、子どもたちが安全で安心して教育を受けることができる状態にするとともに、設備の充実を図っていただきたい。

4：人事交流問題への支援

各学校園の人事は全体に、教育委員会との交流、附属学校園間の交流が促進されている。大学の理事や副理事は教育委員会と話し合い、お互いがメリットになるように、支援していただきたい。

5：各学部・研究科へ要望

教育学部・教育学研究科をはじめ、各学部・研究科は教育実習を中心にして、これまでも各学校園と密接な関係があり、いくつかの学部と研究科は各学校園の教育・研究活動に協力・支援をしていただいていた。これからもすべての学部・研究科に継続して協力と支援をしていただくとともに、それを強化し、相互の関係をより充実したものにしていきたい。

6：教育実習に関する関係部署における改善

- 1) 附属学校園の新任教員が円滑な教育実習指導を展開できるように、本年度から早い時期に新任教員対象の事前教育体制を構築し実施したことは、新任教員にとっては適切であったので、来年度以降も続けていただきたい。
- 2) 幼稚園教育実習においても、小学校、中・高等学校教育実習と同様、事前の観察実習などを導入していただきたい。

IV 総括提言の公開について

平成27年2月開催の拡大校長会議にて委員長から校園長、副校園長に説明した後に公開する。

広島大学附属学校評価委員会

委員長	池野	範男	(教育学研究科教授)
副委員長	井上	京子	(附属学校再編計画室長)
委員	古賀	一博	(教育学研究科教授)
同	鈴木	明子	(教育学研究科教授)
同	中村	猛	(附属学校支援グループリーダー)
同	林	孝	(教育学研究科教授)
同	松浦	伸和	(副理事(附属学校担当)・教育学研究科教授)
同	松岡	誠治	(広島県教育委員会学校経営支援課長)
同	若元	澄男	(比治山大学教授)